

前に進むしかない

僕は一体なにをしているのか。
どうなることを望んでいるのか。

そうだ、そうだ。

僕は胸に手をやって、制服の内ポケットから、封筒を取り出した。

この手紙、本当にこれでいいのか。
本当に僕の言いたいことが書いてあるのか。
この手紙より、はっきり、口で、話そうか。

何と言えはいいのか。

いや、もう、ゆっくり考えている時間がない。

何事も実行力、思ったことをためらわず、実行。
行動力、行動力、それが男だ。

そう自分に言い聞かせながら、僕は改札口を出た。

目の前に彼女がいる。

僕は後ろの改札口の方を、振り向いた。
今、僕の定期を見た職員が、不思議そうに僕を見ている。

見られている。

もう引き返せない。

そのまま、改札口に戻って逃げるわけにも、もう行かん。
前に進むしかない。

声をかけて、思い切って手渡す。
すぐ別れた。